

「世界の医療事情」 2020 年
ナミビア共和国

2020 年 1 月

1. 国名・都市名（国際電話番号）

ナミビア共和国（国際電話国番号 264）

2. 公館の住所・電話番号

○ 在ナミビア共和国日本大使館（毎週土日休館）（注）

Embassy of Japan in the Republic of Namibia

住所：78 Sam Nujoma Drive, Klein Windhoek, Windhoek, the Republic of Namibia

電話：061-426-700

ホームページ：http://www.za.emb-japan.go.jp/jointadmin/namibia/index_i.html

（注）土日以外の休館日は暦年ごとにホームページにて案内していますのでご覧ください。

3. 衛生・医療事情一般

(1) 気候・地誌

首都ウィントフックの気候は年間を通じて温暖で、年間降水量は 300m～400m と非常に少ないです。大きく分けて夏（10月～3月）と冬（5月～9月）に別れ、夏場に雨が降りますが、冬期は殆ど雨が降らず非常に乾燥しています。気温が最も高いのは12月で、低いのは7月です。ウィントフックは内陸にあり、海拔 1,700メートル前後にあるため、通年比較的快適に過ごすことができます。

夏冬を問わず日中の寒暖差が激しいため、日中は夏服で日没とともに冬服が必要になることもあります。

冬場の乾季には湿度が 10%を切ることもあり非常に乾燥し、寒い朝晩は氷点下になることもあります。また、年間を通して降雨量が極端に少なく、年によっては干ばつになる一方、隣国アンゴラの大雨の影響で北部では洪水となることもあり人命や家畜にも大きく影響します。干ばつ時には水不足となり計画断水等があります。春、秋は殆ど無く夏が終わるとすぐに冬が訪れ、冬が終わるとすぐ夏が訪れるという具合です。

(2) 医療水準

都市部においては、医療機関や医師を選べば、比較的高水準の医療を受けることが可能です。専門医は地位・技術・人気によりその診察料金が異なり、非常に高額になる可能性があります。公立病院は、収入に応じての支払いになりますが、設備や医療者の質の点で邦人の受診には適さないところがほとんどです。地方（大都市以外）では私立医療機関で

あってもレベルは高くありません。特に看護師は知識・技術ともレベルは高くありません。

(3) 受診

旅行者には公立病院の利用は難しいので、私立病院、個人クリニックの利用をお勧めします。私立医療機関を受診する際は、あらかじめ担当医に電話等で日時を予約するのが一般的です。評判の良い（人気のある）専門医の予約には、数ヶ月以上を要することも少なくありません。往診は、当国では一般的ではありません。

検査を受ける場合、総合病院の多くでは院内に検査施設があるのですが、個人のクリニックで受診した場合は、別の場所にある検査施設に行き検査を受けることになり、検査結果は患者が取りに行かねばなりません。急病や怪我で緊急の受診が必要な場合は、私立病院の救急外来を受診するのが良いです。ほとんどの総合病院には24時間体制の救急外来があります。この場合予約は必要ありませんが、予め救急外来に電話をしておくとう診が円滑に行くようです。当地の病院を受診した際の支払いは全て現地通貨（ナミビアドル）です。大きな病院ではクレジットカードによる支払いが可能ですが、クリニックでは現金払が普通です。

(4) 救急車の依頼

一刻を争う病気や事故に遭遇した場合は、当国の公的な救急移送体制は対応が遅いため、民間の救急サービス会社（有料）を利用し、私立病院の救急外来を受診するのが良いです。知人等の自家用車にて搬送することができれば、それが最も早く病院に到着できる方法です。

代表的な民間の救急車サービス会社は以下のとおりです。

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| • AEMS Ambulance Services | Tel 081-963, 061-300-118 |
| • Emed 24 | Tel 081-924, 061-411-600 |
| • ER24 | Tel 081-924 |
| • LifeLink | Tel 085-900, 064-500-346 |

(参考: City of Windhoek (public) Tel +264-61-290-2833 (Switchboard))

(5) 医療保険制度

専門医は地位・技術・人気によりその診察料金が異なり、非常に高額になる可能性があるため、当地の医療保険に加入するか、日本を発つ前に緊急移送費を含め、十分な額の支払い保証のある海外旅行傷害保険への加入が推奨されます。私立医療機関では、初診時に前払いをしないと受診や入院を拒否され、公立病院を受診することになります（公立病院は、収入に応じての支払いになりますが、設備や医療者の質の点で邦人の受診には適さないところがほとんどです）。

(6) 水質

水道水は浄水器を使用すれば飲用できますが、飲用水としては浄水器を使用したものか、ミネラルウォーター、ボトルウォーターを利用して下さい。

(7) 食品衛生

都市部におけるA型肝炎感染のリスクは高くはありませんが、地方では水や食物を介しての集団発生が報告されています。当国では、寿司・刺身・生牡蠣などを食する機会があるので注意を要します。

4. かかり易い病気・怪我

(1) 髄膜炎菌髄膜炎

いわゆる髄膜炎ベルトと呼ばれているアフリカ中央地域を中心にしばしば大流行がみられていますが、近年、この髄膜炎ベルトが南部アフリカにも拡大の傾向にあり、当国においても主として冬期に小規模な流行がみられることがあります。感染力は強くないですが飛沫感染するので、学校等の集団生活はリスク因子と考えられていて、学生は予防接種が勧奨されています。本邦では平成27年5月よりワクチン接種が可能となり、当国でも数種のワクチンが出回っているため、状況に応じて選択、接種できます。

(2) マラリア

ナミビアでは2000年以降2013年までにマラリアを約98%減少させましたが、2014年になって北西部を中心に地方部（東カバンゴ、西ガバンゴ、クネネ、オハングウェナ、オムサティ、オシャナ、オシコト、オショゾジョンジュバ、ザンベジ）でマラリア症例が増加傾向にあります。ウイントフックをはじめ都市部でマラリアに罹患する可能性は非常に低いですが、感染リスクが高い地域に出かける場合にはマラリア予防内服が必要となる場合もあるので、事前に現地の状況を確認して予防内服の要否を検討して下さい。また、長袖・長ズボン等で肌の露出をできるだけ控え、防虫剤や蚊取り線香を用いるなど、蚊に刺されない注意も重要です。マラリア媒介蚊は夜間に活発な吸血活動を示すので、防蚊対策は特に夜間の時間帯に力を入れて下さい。ナミビア共和国のマラリアは90%以上が熱帯熱マラリア（*Plasmodium falciparum*）で、治療薬クロロキンに耐性があります。潜伏期は12日前後、発症すると38度以上の高熱が続きます。発症後5日以内に治療を開始しないと脳性マラリアとなり、死亡率が50%にも及ぶので、マラリア感染の疑いがある場合には、可及的速やかに診断・治療を受けて下さい。

(3) コレラ

近年、大流行はみられていませんが、毎年夏期には患者が報告されています。特に夏期に地方部を旅行する場合などは生水や生野菜などを避ける等、細心の注意が必要です。

(4) 破傷風

ナミビアでは小さな怪我（切り傷等）でも必ず消毒し大きな怪我は病院やクリニックで破傷風の予防注射を受けることを勧めます。

(5) B型肝炎

この病気は、性行為・輸血等、血液・体液を介して感染します。一般に節度ある日常生活を送っていれば感染リスクは低いですが、当国のB型肝炎ウイルスキャリアはかなりの数に上ると推定されます。偶発的な感染機会が否定できず、予防接種を受けておくことを強く推奨します。

(6) E型肝炎

2017年10月に首都ウィントフックにて確認され、2018年5月には北部の地域にも拡大しています。この病気は、食べ物や飲み物を介して感染します。潜伏期間が6週間と長く、発熱や全身倦怠感といった風邪のような症状で始まり、次第に黄疸が出現します。治療薬はなく、安静を保ち自然に回復するのを待ちます。妊婦が感染すると重症化し、流産の危険性が高くなります。ワクチンはありません。予防策として、生水、氷、生野菜、カットフルーツ、生肉等の摂取を控え、石鹸で手を洗う等が挙げられます。

5. 健康上心掛ける事

(1) 日焼け

ウィントフックは高地にあり、日照時間も長く、紫外線が強いので、屋外で過ごす際には、紫外線を通しにくい服を着る、帽子、サングラス、日傘などを上手に使う、日焼け止めクリームをムラなくこまめに塗るといった紫外線対策が必要です。

(2) 乾燥

湿度が非常に低いので、保湿が大切です。

(3) 精神的健康管理

海外生活は、文化や風土の違いにより日ごろからストレスを生じやすいです。また、病気になると、医療システムが日本と異なるため、患者及び家族は、病気そのもの以外にも様々な精神的ストレスに曝される可能性があります。日ごろから気分転換、ストレス解消を心がけ、疲労を溜めないよう工夫することが大切です。

6. 予防接種

(1) 赴任者に必要な予防接種

日本から入国する際に求められる予防接種はありませんが、以下の予防接種は可能な限

り日本で受けておくのが良いと思われます。

成人：A型肝炎，B型肝炎，破傷風，腸チフス

小児：わが国の定期接種である三種混合(DTP)、BCG、ポリオ、麻疹、風疹、水痘、インフルエンザ菌b型(Hib)、肺炎球菌、B型肝炎、及び任意接種であるおたふく風邪。

尚、黄熱病汚染国から入国する場合は、イエローカードの提示を求められます。黄熱病汚染国での、12時間以上のトランジットでも必要です。

(2) 現地の小児定期予防接種一覧：

表. ナミビア共和国の小児の定期予防接種

	初回	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
BCG	出生時					
ポリオ(OPV)	出生時	6週	10週	14週	5歳	10歳
B型肝炎	生後24時間以内					
Pentavalent: 三種混合(DTP), インフルエンザ菌b型(Hib), B型肝炎	6週	10週	14週			
ロタ	6週	10週				
肺炎球菌	6週	10週	14週			
麻疹(MMR)	9ヶ月					
二種混合(DT)	5歳	10歳				

* 私費で予防接種を受ける場合は、診察料とワクチン代の実費が必要となります。私立病院小児科，クリニックなどで受けます。

(3) 小児が現地校に入学・入園する際に必要な予防接種・接種証明

公立学校の入学・入園に必要な予防接種はありません。私立学校は学校によって取扱いが異なるものの、必要な予防接種はありませんが、予防接種記録のコピーの提出を要求されることがあります。しかし、事前に要否が確認できない場合には念のために日本で英文の予防接種証明書を作成してもらっておくと安心です。

7. 乳児健診

(1) 公的な乳児健診

実施されていません。

(2) 私的な乳児健診

希望すれば出産した私立病院の小児科で受けることができます。日本のように発達の節目を重視したスケジュールはありません。

8. 病気になった場合（医療機関）

日本人が比較的に利用しやすく一定の医療水準を有すると思われる病院は以下のとおりです。

◎ウイントフック

(1) MEDICLINIC

所在地：Heliendoor Street, Eros, 9000, Windhoek

電話：061-433-1000（代表），Emergency Number：061-22-9246

ホームページ：<http://www.mediclinic.co.za>

概要：心臓外科以外の全ての科を揃え、121床を持つクリニックです。画像診断はデジタルでデータを保存します。救急外来は24時間対応しています。集中治療室9床と小児の集中治療室もあります。

(2) Roman Catholic Hospital

所在地：92 Wermer List Street, Windhoek

電話：061-270-2911, FAX：061-270-2123

概要：創立110年の私立病院です。産婦人科以外の全科を揃えています。心臓外科医が1名いて、心臓の手術を行っている唯一の病院です。画像診断はデジタルでデータを保存します。救急外来は24時間対応しています。

Heart Attack Center：2018年7月から稼働。Emergency No.：085911

(3) Lady Pohanba Private Hospital

所在地：Erf1421, Cnr Frankie Fredericks Drive & Ombika Street, Kleine Kuppe Khoma

電話：083-335-9000, Emergency Center：083-335-9040, 0833-911

ホームページ：<http://lpph.com.na/>

概要：創立1年半の私立病院です。136床あります。心臓外科以外の全科を揃えています。外傷専門医が1名いて、Trauma Care Unit（外傷ケアセンター）があります。

(4) Dr. Linda Schickerling

所在地：C/O Wecke & Post St, Windhoek (Behind Whernhill Park)

電話：061-228-775

FAX : 061-223-494

概要 : 歯科クリニック

○スワコップムント

ウイントフック西 353km にあるナミビア第 2 の都市

(1) Mediclinic Swakopmund

所在地 : Franziska Van Neel, Swakopmund

電話 : 064-412-200

概要 : 1996 年に鉦山病院として設立され、2004 年に Mediclinic の名称になった私立病院です。67 床あり、20 名の医師と契約を結んでいます。専門医は、内科 2 名、整形外科 2 名、泌尿器科 2 名、小児科、麻酔科、外科、放射線科、産婦人科、精神科です。心臓外科と脳外科の患者対応はできないので、ウイントフックに搬送します。整形外科医がいるので骨盤骨折には対応できます。ICU は 7 床あり、1 床は感染隔離用です。NICU もあります。手術室は 2 室あります。救急救命室は 24 時間稼働しています。蘇生室もあります。放射線科には、X 線検査、造影検査、マンモグラフィー、CT、MRI が入っています。上部・下部消化管内視鏡検査もできます。院内に薬局があります。

○ウォルスベイ

ウイントフック東部 395km にある沿岸中部に位置する湾港都市

(1) Welwitschia Hospital

所在地 : Dr. Putch, Harries Cl, Walvis Bay

電話 : 064-218-911

Hospital Manager: Gareth Smith

E-mail: SmithG@walvisbay-medipark.com

概要 : 1998 年 10 月に設立された。63 床の私立病院です。専門医は、外科、整形外科、形成外科、婦人科、眼科、放射線科、内科 2 名、小児科 2 名の医師と契約しています。心臓外科と脳外科の患者対応はできないので、ウイントフックに搬送します。ICU は 6 床あり、1 床は感染隔離用です。NICU もあり、保育器が 2 台あります。手術室は 3 室あります。救急救命室は 24 時間稼働しています。臨床検査と放射線科は時間外にはオンコール制となります。院内に薬局があります。放射線科は、X 線撮影 2 台、造影検査 1 台、マンモグラフィー 1 台、超音波診断 2 台、CT、MRI が入っています。

○オチワロンゴ

ウイントフック北部 250km にある中北部に位置する都市

(1) Mediclinic Hospital in Otjiwarongo

所在地 : Sonn Street, Otjiwarongo, 9000

電話：067-303-734

概要：20床の病床を持つ私立病院です。General Practitioner 12名と契約しています。専門医はいません。救急救命室と手術室1室と薬局があります。救急救命室はOn Call制になっています。血液検査とレントゲン検査は外注します。簡単な手術と透析は可能です。重症患者はウイントフックに移送します。

○カティマ・ムリロ

ナミビア北東端のカプリビ回廊に位置する都市で、ザンベジ州の州都。ザンビアと国境を接し南部アフリカ諸国に向かう交通の要所に所在。マラリア感染が高い地域。

(1) Katima Mulilo State Hospital

所在地：Hage Geingob Street, Katima Mulilo

電話：066-251-400

概要：246床の病床を持つ唯一の州立病院です。6名のGeneral Practitioner(GP)がいます。専門医はいません。レントゲン検査、超音波検査、血液検査ができます。救急救命室、集中治療室、手術室2室、薬局があります。救急救命室はOn Call制になっています。簡単な緊急手術のみ可能です。救急車が7台あります。重症患者はウイントフックに移送します。

(2) クリニック

いずれもGP医師が診療しています。診察室には、蘇生機器、心電図、超音波検査機、耳鏡、眼底鏡等を備え、血糖、マラリア検査等を行っています。他の血液検査はそれぞれKatima Mulilo State Hospital, Caprivi Pathology Centre, ウイントフックのPathCareに依頼しています。レントゲン検査はKatima Mulilo State Hospitalで行っています。ワクチン接種も行っています。それぞれの医師によってクリニックの特徴が異なります。

• Good Health EL RAPHA Medical Centre

所在地：Shop 5 Erf 102/1022, Hage Geingob Street

電話：066-253-321

Dr. Santos (女医)

• Enkehouse Medical Centre

所在地：Shoprite complex next to hungry lion

電話：066-254-071

Dr. Kombo

歯科もある。

• Riverside Medical Centre

所在地：2 Haartman Building, Hage Geingob Street

電話：066-252-966

Dr. N Mabhena (ジンバブエ人)

隣が Caprivi Pathology Centre。

○オシャカティ

北部オシャナ州の州都。

(1) Ongwediva Medipark

所在地：7031 Auguste Taanyanda Street, Ongwediva, Namibia

電話：065-232-911

Web site：www.ongwediva-medipark.com

Email：info@ongwediva-medipark.com

概要：2006年に設立された、170床の病床を持つ私立病院です。外科、脳外科、心臓外科、整形外科、形成外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、放射線科、内科、循環器科、呼吸器科、神経内科、小児科、小児循環器科、腫瘍科、精神科、歯科に40名の専門医がいて、14名の General Practitioner もいます。救急救命室は24時間対応していて、トリアージ毎に処置ベッドがあります。集中治療室7床は全て個室になっています。ナミビアで唯一小児集中治療室が7床あり、新生児集中治療室も7床あります。放射線科は、X線検査、造影検査、マンモグラフィ、超音波診断機器、CTがあり、北部で唯一MRIがあります。手術室は3室あり、内1室は産婦人科用です。心臓血管カテーテルラボがあります。透析器が10台あり、ナミビアで唯一腎臓移植を行っています。院内に薬局があります。

(2) Ondangwa Private Hospital

所在地：Erf 1602, Freedom Square, Ondangwa

電話：065-283-100

概要：30床の病床を持つ私立病院。現在病棟を拡張中で、いずれは55床になる計画の由です。外科、内科、小児科、産婦人科、放射線科、泌尿器科、麻酔科、腫瘍科に20名の専門医がいて、8名の General Practitioner もいます。脳外科、心臓外科、整形外科の専門医がいないので、その専門医を必要とする患者は上記 Ongwediva Medipark に移送します。救急救命室は24時間対応しています。集中治療室が2床、手術室が2室あります。放射線科は、X線検査、造影検査、マンモグラフィ、超音波診断機、CTがあります。院内の薬局は院内患者用になっていますが、近くに薬局があります。

○レホボス

ウイントフック南 90km, 南回帰線のすぐ北にあるハルダブ州の町。

(3) Oanob Private Hospital

所在地：1118 Block A, Niklaas Olivier Street, Rehoboth, Namibia

電話：062-521-400

Web site：www.oanobprivatehospital.com/index.php

Email：info@oanobprivatehospital.com

概要：2019年11月に設立された、36床の病床を持つレホボス初の私立病院です。現在は6名のGeneral Practitionerと婦人科、歯科に2名の専門医がいるだけで、今後専門医を増やしていく計画の由です。救急救命室は24時間対応しています。集中治療室は2床ありますが、専門医がいないので未だ稼働していません。放射線科は、超音波診断機器があり、現在X線検査室を建設中で、マンモグラフィーも配備する予定です。手術室は2室あります。専門医が月に2回来て、診察、手術を行っています。薬局、救急車1台もあります。

9. その他の詳細情報入手先

(1) ナミビア保健省：<http://www.mhss.gov.na/>

(2) 世界保健機構(WHO)国別情報：<http://www.who.int/countries/dom/en/>

感染症情報、医療統計があります。

(2) ナミビアに関する米国疾病予防管理センター(CDC)旅行医学：

<http://wwwnc.cdc.gov/travel/destinations/traveler/none/namibia>

10. 現地語一口メモ (英語)

世界の医療事情の冒頭ページの一口メモ (もしもの時の医療英語) を参照下さい。